

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西成区
学 校 名	大阪市立岸里小学校
学校長名	大無田 信教

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・岸里小学校では、第6学年 49 名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語〕

本校の平均正答率は63%で、市平均正答率66%・全国平均正答率67.7%には少し届かなかったが、昨年度の調査結果（本校58%）より改善され、市や全国平均との差も縮まった。

〔算数〕

本校の平均正答率は54%で、市平均正答率62%・全国平均正答率63.4%を下回る結果となった。本校の昨年度の結果（本校62%）からも下回るけつとなった。

〔児童質問紙〕

「自分には、よいところがあると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」のいずれの質問の結果とも、大阪市・全国の結果と同様の傾向にあることがわかる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

（1）言葉の特徴や使い方に関する事項について、全国や市の平均よりも下回り、課題があることがわかった。また、A「話すこと・聞くこと」についても、全国や市の正答率も低かった。本校としての課題が明確に表れた結果となっている。

〔算数〕

いずれの領域においても、平均正答率は全国や市の平均よりも下回っているが、平均無回答率については、全国・市と大きな差はない結果となった。

今年度の結果としては、特に算数について、市・全国との差がある。どの教科においても、基礎的・基本的な学習内容の定着に引き続き取り組むとともに、それらを活用して表現したり説明したりする対話的な授業作りを充実させていく必要がある。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」について、市・全国と同様の回答傾向となった。「学校に行くのは楽しいと思いますか」については、全国・市よりも肯定的な回答が上回った。今後とも、日々の児童の様子や関係をしっかり把握し、継続して仲間づくりに取り組んでいく。児童が自分を肯定的に評価できるよう教育活動中の他者からの認証や互いの良さを認めあうことができる異学年交流等の機会を設定していきたい。

学習活動については、国語・算数ともに「好き」と答えている児童は多いので、「わかった・おもしろい・できた」とより多くの児童が感じることができる授業づくりに取り組み、「主体的対話的で深い学び」を目指していく。

今後の取組(アクションプラン)

【国語】

自分の考えをまとめ友達と交流する場面を設定すること、教材文から考えの根拠となる個所を引用して発表しあうことなど、相手へ伝える意識をもって自分の考えや思いをまとめ、書き、伝え合う活動を継続する。また、朝学習や読書タイム・本の読み聞かせ等の取り組みを継続する。児童がよりいっそう漢字に興味・関心が持てるよう工夫した指導や辞書を活用した語彙指導などを継続する。

【算数】

I C T機器を活用するなどして個に応じた指導支援を充実させ、基礎基本の定着に取り組む。「確実・丁寧・速さ」を児童が意識できるよう指導法を工夫する。授業作りにおいては、互いの見通しや考え方を交流し学び合う学習活動を進めていく。

【児童質問紙】

生活面においても学習面においても、学校と家庭とが連携しながら取り組んでいくことが欠かせない。安全・安心な学校生活の中で、家庭学習の大切さを児童が理解し実践できるよう今後も、保護者と連携しながら児童の心身の状況や学習状況の把握に努め、一人ひとりに寄り添った指導支援を進めていく。